



▲上海の中学生と一緒に和気あいあいとワンタンを手作り。みんなでおいしく食べました。



▲中国の伝統楽器を体験。上海の中学生がていねいに教えてくれました。



上海の中学生の皆さんは、流ちょうに日本語をしゃべっていて、日本のアニメが大好きだそうです。

山下紗里奈さん（海陽中）



古賀希さん（第三中）



池松みなみさん（第四中）

授業は全て英語で進められ、おもしろい授業でした。みんな英語を普通に話していて驚きました。

ワンタンづくりに挑戦。餃子をねじったようなもので、作り方はほぼ同じでした。おいしかったです。



森川泰樹さん（海陽中）



言葉があまり通じず、意思疎通に苦労しました。仲良く会話するために、英語は必要だと思いました。

牛島彩夏さん（第三中）

特集

荒尾・上海 21世紀的朋友！

～アジアの世紀、未来はきみたちの手に～

8月22日～25日 中学生上海市友好交流訪問団 上海訪問記



▲たくさんの期待と少しの不安を胸に、出発の朝。

20世紀初頭、本市の先人・宮崎滔天は、辛亥革命の指導者であり終生の友であった孫文を支援するため、たびたび中国・上海を訪れました。中国最先端の都市・上海は、福岡空港から約1時間30分。最も身近なアジアの都市でもあります。

この8月、先人が結んだ強い友情の絆をたどり、本市の中学生15人が上海を訪問しました。両国の歴史や文化を学ぶことで相互理解を深め、中国の「今」を体験することで新しい時代の友情の礎を築く訪問団として、15人の中学生はどんな体験をしたのでしょうか。

福岡空港からあっという間に上海に到着。想像していたイメージとは違いました。まさに、「聞くと見るとは大違い」「百聞は一見にしかず」。日系企業も多数進出する経済の発展に触れ、宮崎滔天と孫文の友情の足跡をたどりました。

1日目・2日目



平田機工を見学して、外国で働く場合、相手の価値基準を理解する事の大切さを学びました。

清水瑠華さん（第三中）



上海孫中山故居紀念館では、孫文の歴史を学び、仲間や家族を大切にする人だと思いました。

吉田太志さん（第四中）



▲平田機工自動化設備（上海）有限公司を見学。平田機工は熊本市に本部を置く地場企業。

和やかな交流に、25年前に初めて日本を訪れた自分が重なる

訪問団の全日程に同行して感じた荒尾の生徒の印象とメッセージ



上海市人民对外友好協会
周国栄さん

本市を3度訪れたことがあ
る周さんは、上海でも指折
りの「荒尾通」です。

今回初めて、荒尾市の中学生の皆さんと接し上海市を案内することができ、とても深く良い印象を残してくれました。生徒たちの明るい立ち振る舞いに染まり、自分の中学時代が思い出されました。荒尾の生徒たちは才能豊か。上海世界外国語中学で交流する時、上海側生徒の日本語の合唱が終わると、荒尾市の生徒は吹奏楽を披露。女子のサックス、クラリネット、フルートの配合もさることながら、その後ろで剣道服、柔道服、合気道服姿の男子は元気よく掛け声を連発。余りにも元気過ぎた声に、会場は大きな拍手と笑いに包まれました。次はAKB48の歌。昨年、当協会共同主催のAKB48上海コンサートとの接遇の一人でもあった私にとって、ファンの熱狂振りを思い出しながらの楽しい一時でした。中日両国の中学生の和やかな交流の場面に、25年前、初めて日本を訪れ、中学生交流に参加した自分の姿が重なりました。今回上海を訪れてくれた生徒皆さんの今後の成長を楽しみにしています。

4日目 8月25日（土）	3日目 8月24日（金）	2日目 8月23日（木）	1日目 8月22日（水）
・ホストファミリーと行動 ・中学校に集合、ホストファミリーや外国語中学校の生徒とお別れ ・上海浦東空港から福岡空港へ ・荒尾市役所到着、解散	・上海世界外国語中学校で学校交流音楽と英語の授業、ワンタンづくりに挑戦。 ・ホームステイ ・ホストファミリーと行動 ・中学校に集合、ホストファミリーや外国語中学校の生徒とお別れ ・上海浦東空港から福岡空港へ ・荒尾市役所到着、解散	・上海孫中山（孫文）故居紀念館見学 ・上海市人民对外友好協会主催交流会に出席 ・上海博物館見学 ・上海雑技団公演見学 ・平田機工（日系企業）見学 ・味千ラーメンで昼食 ・豫園（明代の庭園で上海の観光地）見学	・荒尾市役所集合、出発 ・福岡空港から上海浦東空港へ ・上海東方明珠電視塔見学 ・上海博物館見学 ・上海雑技団公演見学 ・平田機工（日系企業）見学 ・味千ラーメンで昼食 ・豫園（明代の庭園で上海の観光地）見学

※時差：マイナス1時間



▲交流した中学生と記念撮影。この貴重な体験と良き出会いが、日中友好の新しい懸け橋となることを期待します。

市制施行70周年を記念して、10年振りに中学生が中国を訪問しました。訪問先の上海市とは、平成20年から上海市人民対外友好協会との交流がスタートし、毎年のように友好交流を重ねてきました。今回、学校交流の受入先である中学校から「来年はぜひ荒尾に行きたい」という提案を受けるなど、新しい交流も芽生えつつあります。

今から約百年前、逆境の中でもアジアの平和と発展を願い、民族や言語の壁を乗り越えて友情を貫いた宮崎滔天と孫文の志を未来へと伝えるため、本市では両先人の友情を礎に、上海市や広東省中山市などの友好交流に取り組んでいます。

本年は日中国交正常化40周年の節目の年を迎え、上海市側からの提案で宮崎滔天とその兄弟に関する企画展を上海市で開催することになりました。今を生きる両国の私たちに、「隣人の大切さ」を改めて示唆する貴重な機会と考え、両国の末永い友好交流の系譜に新しい1ページを刻みたいと思います。

団長（教育長） 丸山秀人

先人の友情を後世に
新しい歴史の1ページ

日中国交正常化 40 周年記念

「推心置腹※一孫文と日本友人宮崎滔天文物史料展」 in 上海孫中山故居紀念館

熊本荒尾が生んだ日中友好の懸け橋・宮崎滔天とその兄弟の史料展を中国で初めて開催します。

- 期間 2012年11月17日（土）～2013年1月24日（日）
- 主催 荒尾市、熊本県、日中人民対外友好協会、上海孫中山故居紀念館

問 政策企画課企画統計係 ☎ 63-1274

※推心置腹…誠心誠意を持って人に接すること。孫文が宮崎滔天に贈った言葉。



▲上海特別史料展で公開予定の史料
(上) 孫文直筆の扁額
(下) 革命家の寄せ書き



牧鈴奈さん（第四中）



浦さとりさん（海陽中）



山内玲未さん（第三中）



山崎美侑さん（第四中）



▲ホストファミリーと楽しく過ごしました。



▲バドミントンを一緒にプレイして国際交流。

ホストファミリーは、とても仲が良く、日本語が上手な人たちでした。

中国の家庭に宿泊し、トイレを使う人と洗面台を使う人が、一緒にトイレに入っていたことに驚きました。

ホームステイ先では、朝食は肉まんなどを家で食べ、昼食と夕食は外食に連れてってもらいました。

ホストファミリーとの会話は英語が多かったけど、中学生が日本語に訳してくれて楽しく会話ができました。

ホストファミリーと一緒に観光名所を巡り、日本のことやアニメのことを話せて楽しかったです。

ホームステイで感じたことは、家族の温かさでした。家族を大切にすることは外国人でも一緒だと思いました。

帰国後、水道水を飲めることに感謝しました。やはり普通に水を飲めることはありがたいです。

上海に行って特に感じたことは言葉の壁です。うまく自分の言いたいことが伝わらなくて大変でした。

油野木孝さん（海陽中）

高木雛さん（海陽中）

宮崎滔天と孫文のように強い友情を育む交流、今後も続けて

文化を学び合うこと、将来に生かすこと―帰国してから始まる新しい学び

中学生を引率し、個人的には10年ぶりに上海を訪れました。上海市は巨大都市へと発展し、高層ビル群の間を高級自動車がひしめき合う景観で、10年前の記憶はほとんど書き換えられました。全行程をご案内いただいた周国栄さんの「現地に住む上海人でも、3カ月で浦島太郎になりますよ!」との言葉がとても印象的でした。

帰国途中、私は中学生に二つの話をしました。一つは「日本ほど平和で安全な国は他にないが、日本の常識が海外では非常識なこともある。だから、文化を学び合う」。もう一つは「これからは、仕事で海外に出向くことが普通となる時代。君たちはそれを少し早く学びに行った。これからの学校生活や自らの進路に役立てよう」と。

今後、荒尾市と上海市が宮崎滔天と孫文の友情のように長く深い結びつきを持ち、未来を拓く青少年の交流が継続的に行われることを願います。



交流訪問団の副団長
(荒尾第三中学校校長)

曾我祐智さん